

令和6年度 第1回

九州地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会 議事概要

1. 開催日時 令和6年6月26日（水）14:30～15:30

2. 開催場所 福岡第二合同庁舎 共用第4・第5・第6会議室

3. 出席委員 委員長 砂田 太士 福岡大学法学部教授
委員 園田 佳巨 九州大学理事・副学長
委員 矢野 真紀 公認会計士
委員 吉野 直人 西南学院大学商学部教授 （敬称略 五十音順）
※以下の1名の委員は欠席。
委員 高田 亜朱華 弁護士
（なお、高田委員にはコンプライアンス推進本部（事務局）より、事前に
議事内容の説明を行い、聴取した意見を当委員会において報告した。）

4. コンプライアンス推進本部出席者

本部長 森戸局長
副本部長 坂井副局長 寺本副局長
本部長 笠井企画部長 判田建政部長 浦山河川部長 三保木道路部長
宮津港湾空港部長 西尾営繕部長 山王用地部長 今田統括防災官

5. 議事

◇ 委員長の選出について

- （1）令和5年度コンプライアンス推進計画の実施状況報告
- （2）その他

6. 議事の概要

◇ 委員長の選出について

九州地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会規則第4条に基づき、以下のよう
に選出及び指名を行った。

- ・砂田委員を委員長に選出した。

- ・砂田委員長から吉野委員を委員長代理に指名した。

(1) 令和5年度コンプライアンス推進計画の実施状況報告

「九州地方整備局コンプライアンス推進計画（令和3年度～令和5年度）」（以下、「推進計画」という。）に基づく、令和5年度の実施状況等について、九州地方整備局コンプライアンス推進本部から以下の説明がなされた。

① 推進計画「Ⅱ.具体的取組」の実施状況と評価

推進計画に掲げられた各種取組について、令和5年度における実施状況と各取組に対する職員アンケートの結果、並びにこれらを踏まえた評価について説明がなされた。

② 推進計画＜緊急追加事項＞の実施状況と評価

＜緊急追加事項＞は、令和3年度に発生した、九州地方整備局関門航路事務所発注業務に関連して、職員が加重収賄罪で有罪判決を受けた事案（以下、「関門事案」という。）に係る再発防止策を推進計画に取り込んだものであり、その実施状況と評価について説明がなされた。

③ 令和5年度の実施評価のまとめ

上記①及び②を総括した、令和5年度における九州地方整備局のコンプライアンス推進の実施状況に対する評価について説明がなされた。

上記の説明に対し、委員から以下の意見がなされた。

○風通しの良い魅力ある職場づくりについて

- ・「風通しの良い魅力ある職場づくりの取組」は、九州地方整備局全体で取り組んでおり良い取組である。
- ・風通しの良さとは、単なる仲の良さを超え、会議などの場で躊躇することなく自分の意見が言え、周りの人が意見を受け入れ聴いているという実感が持てるような形が見えてくると、より職場の風土が良くなっていく。そのためにも部署を超えた横の繋がりを作することを意識した取組が良いと思う。
- ・コンプライアンスに関するアンケート結果の良いところだけでなく、少数で芳しくない回答をした者の意見や具体的な事例を拾い目を向け、取組を継続することが大事だと思う。

○職員の1人ひとりの知識・意欲の向上（情報提供と活用）について

- ・ポケットブックの内容を把握していない職員がいる可能性があるため、全ての職員がポケットブックの内容を把握するような取り組みを行う必要がある。そのためにも、コンプライアンスの研修（対面）で教材として使用してはどうか。

- ・コンプライアンス通信は他の取組に比べると「役立っていない」と回答した割合が少し高いため、不満などの理由を自由回答などで把握することでコンテンツ作りに活かしていける。

○職員の1人ひとりの知識・意欲の向上（研修・講習会）について

- ・各種取組内容を若手、中堅及び幹部職員といった階層ごとに創意工夫してやっていただきたい。聴講だけでなく、役割分担を決めてロールプレイングをするのも一つの考え方だと思う。
- ・発注者綱紀保持のセルフチェック（ランダム出題形式）は効果的な取組であるが、正解を選択する方式だけなので、記述式の問題も作ってはどうか。
- ・発注者綱紀保持講習会はeラーニングと対面方式を併用して実施してみてもどうか。
- ・コンプライアンスに関する研修の参加率が毎年100%に達していない。毎年同じ職員が研修に参加していないようだと言った研修の意味をなさないのでは、同一人物が欠席しないような配慮が必要。

○誤りや不適切な行為の未然防止について

- ・少額随意契約の監査の抽出基準は、金額にかかわらずランダムに行うべき。また時々、抜き打ち的に監査することを考えてはどうか。

○過去の不正事案の風化防止について

- ・過去の不正事案の風化防止対策として、関門事案に特化した講習会や大規模研修会を実施するのが良いのではないかと。
- ・他のエリアでおきた不正事案についてケーススタディを行うことは、若い職員にとって非常に大事である。

○コンプライアンス関係通報窓口の周知

- ・職員の内部通報のフローや制度に対する理解や周知が行き届いていないことを懸念しており、制度として使える状態かが実効性という意味で大事なところ。また、通報に基づく調査は匿名でなく実名通報がポイントとなる。それでも匿名で通報したい時に外部窓口が使えることを理解しているかフォローすること。

（2）その他

特になし

<まとめ>

「令和5年度九州地方整備局コンプライアンス報告書」の内容については、了承する。

令和5年度におけるコンプライアンス推進の取組状況は、良好であると評価できる。

令和6年度は九州地方整備局コンプライアンス推進計画（令和6年度～令和8年度）の初年度である。本日の委員会意見も踏まえ、より一層のコンプライアンス推進を図られたい。